

しろちどり



第 64 号

2010年6月 日本野鳥の会三重

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

2010 年度日本野鳥の会三重県支部総会

2010 年 5 月 23 日 13 時 30 分～15 時 00 分

2010 年度日本野鳥の会三重県支部総会が、5 月 23 日（日）津市の三重県総合文化センターで開催されました。5 月現在の会員数（家族会員を除く）は 331 名ですが、総会への出席者 25 名、委任状提出者 128 名で計 153 名とわずかながら過半数を下回りました。

今回は、やむをえず支部規則第 17 条 4「委任状未提出者は支部長に委任したものとみなす」に従い、総会が成立しました。以下の各議案について承認を受けました。

開会挨拶 平井正志支部長



議事

- 1) 2009 年度活動報告
- 2) 2009 年度決算報告、監査報告
- 3) 支部名変更・支部規則改正の件
- 4) 2010 年度活動計画(案)
- 5) 2010 年度予算(案)

2009 年度 活動報告

2009 年度 保護部活動報告

1. 風力発電問題

○白猪山風力発電について

準備書閲覧 2009 年 12 月

反対意見を提出 1 月 12 日（両社、松阪市長、三重県等）

松阪市長と会見 1 月

署名活動を始める 5 月

○青山風力増設について

準備書閲覧 2010 年 5 月 6 日、11 日

反対意見作成中

署名活動を始める 5 月

2. 鈴鹿山脈イヌワシ問題

自然環境部に質問状 1 月 11 日

県自然環境部 副室長と会談 4 月 19 日

猛禽類専門家に相談 5 月 1 日

中部地方環境事務所へ電話

3. チュウヒサミット準備、

本部、愛知県支部などと準備を進めている。

7 月 18 日開催予定（名古屋）

4. 猛禽繁殖調査

A. 木曾岬干拓地チュウヒ調査 毎月調査を継続

B. 北勢地方クマタカ調査 支部の独自調査として継続

2009 年は繁殖せず、2010 年古い巣で抱卵中

C. 中勢地方オオタカ調査

県の公共工事にともなう委託調査 4 名の支部会員が参加継続

2009 年は 2 羽が巣立つ、2010 年 3 月 8 日に雌雄を同時に観察、

繁殖中と思われるが活動は少ない。

5. 中勢海岸保護

A. 支部会員によりシギ・チドリカウント（環境省委託 モニタリング 1000）を継続

コアサイト五主海岸、安濃川河口、櫛田川河口、一般サイトとして豊津浦・町屋浦（その他の一般サイトとして鈴鹿川河口）

B. WWF Japan から 豊津浦・町屋浦＝ラムサール条約登録基準を満たす湿地と選定した。安濃川河口、五主海岸、櫛田川河口＝国際的な渡り鳥渡来地として登録可能な湿地と選定したとの連絡。

C. ミヤコドリカウント 2010 年 1 月 23 日 4 名の有志会員で調査 豊津浦から雲出川河口まで 74 羽

D. シロチドリ繁殖
2009年 ヒナ8羽巣立つ(豊津浦・町屋浦)、その他にも香良洲海岸で繁殖が確認された。

E. コアジサシ繁殖保護
2009年 雲出川河口で(20羽程度が飛来)少数が抱卵 数羽のヒナが巣立った模様、注意を促す看板を立てた。
2010年 看板を立てた。

2009年度 研究部活動報告

1. 委託調査

○県委託ガンカモ類及びカワウー斉調査
調査地点:172ヶ所

調査者 :35名

○県委託カワウーねぐらコロニー調査
調査地点:17ヶ所

年3回(7月、12月、3月)

調査者:23名

2. モニタリングサイト 1000(環境省生物多様性センター)

シギ・チドリ類調査

雲出川河口五主海岸、鈴鹿川河口～鈴鹿派川河口、安濃川河口～志登茂川河口

愛宕川～櫛田川河口、豊津浦～町屋浦 の5地点

各地点で年3回(春期、秋期、冬期)

2009年度 編集部活動報告

第61号しろちどり 21ページ8月11日発行

第62号しろちどり 9ページ11月14日発行

第63号しろちどり 15ページ3月1日発行

2009年度 企画部報告

1. 探鳥会

年間計 52回 うち中止3回

4月

5日(日) 藤原岳山麓探鳥会

19日(日) 五主探鳥会

25日(土) 三重県民の森探鳥会

26日(日) 木曾岬干拓地探鳥会

5月

3日(日) 志原探鳥会

9日(土) 朝明源流探鳥会

10日(日) 五十鈴川上流早朝探鳥会

10日(日) 奥山権現探鳥会

19日(火) 海蔵川探鳥会

23日(土) 美杉探鳥会

24日(日) 木曾岬干拓地探鳥会

6月

7日(日) 安部田探鳥会

7日(日) 剣峠探鳥会

7日(日) 南青山高原探鳥会

28日(日) 木曾岬干拓地探鳥会

7月

26日(日) 木曾岬干拓地探鳥会

8月

22日(土) ねぐら入り探鳥会

23日(日) 木曾岬干拓地探鳥会

9月

6日(日) 金剛川・櫛田川河口探鳥会

6日(日) 法花探鳥会

13日(日) 高松海岸探鳥会

15日(火) 海蔵川探鳥会

20日(日) 多度山探鳥会

27日(日) 木曾岬干拓地探鳥会

10月

1日(木)～10月3日(土)

伊勢タカ渡り探鳥会

3日(土) 相津峠タカ渡り探鳥会

4日(日) 鳥羽行者山タカワタリ探鳥会

11日(日) 市木川探鳥会

18日(日) 町屋浦ミュビシギ探鳥会

25日(日) 木曾岬干拓地探鳥会

11月

8日(日) 中村川探鳥会

14日(土) 香良洲海岸探鳥会

22日(日) 木曾岬干拓地探鳥会

22日(日) 白猪山探鳥会(臨時)

24日(火) 海蔵川探鳥会

29日(日) 員弁川探鳥会

12月

6日(日) ベルファーム探鳥会

13日(日) 神路ダム探鳥会

23日(水・祝) 安濃ダム探鳥会

27日(日) 木曾岬干拓地探鳥会

1月

24日(日) 木曾岬干拓地探鳥会

31日(日) 大淀海岸カモメ探鳥会

31日(日) 余野公園探鳥会

2月

14日(日) 木曾三川探鳥会

27日(土) 五十鈴川周辺探鳥会

28日(日) 津偕楽公園探鳥会

28日(日) 木曾岬干拓地探鳥会

3月

7日(日) 石垣池探鳥会

7日(日) 上野城探鳥会

16日(火) 海蔵川探鳥会

28日(日) 木曾岬干拓地探鳥会

28日(日) 篠田山探鳥会

2. 野鳥講座

5月17日(日) 総会後

講師 近藤理事、前澤理事

3. バスツアー

12月12日(土)

湖北方面 42名参加

2009年度 事務局活動報告

1. 総会 2009年5月17日(日)

三重県総合文化センター

2. 理事会

第1回 5月17日 津市雲出市民センター

第2回 8月2日 津市雲出市民センター

第3回 11月15日 津市雲出市民センター

第4回 3月8日 津市雲出市民センター

2010年度 活動計画

2010年度 保護部活動計画

7月チュウヒサミットを開催する(名古屋)。

青山風力増設準備書についての意見を出し、反対運動を行う。

白猪山風力についても引き続き反対運動を行う。

その他の風力発電計画についても監視する。

鈴鹿山脈イヌワシ問題に対応する。

中勢海岸保護活動を進める。

シロチドリ、コアジサシ繁殖保護、

木曾岬干拓地チュウヒ調査 継続

北勢地方のクマタカ調査 継続

中勢地方のオオタカ調査 継続

2010年度 研究部活動計画

今年度もガン・カモ類鳥類調査、カワウねぐらコロニー調査、シギ・チドリ類調査を行っていく。

2010年度 編集部活動計画

3号から4号の発行をしたい。

2010年度 事務局活動計画

1. 総会

5月23日(日) 三重県総合文化センター
中会議室

2. 理事会

第1回 5月23日(日)

第2回 8月8日(日)

第3回 11月7日(日)

第4回 3月13日(日)

表紙の言葉

北川和則(多気町)

やがて森が新緑になるころ、森林デビューする子どもたち。今年、デビューした新人も森の仲間は無事育ちますように。



日本野鳥の会三重県支部 2010 年度予算案

22年度 自2010年4月1日 至2011年3月31日

単位:円

科目	21年度実績		比較増減	備考	22年度予算会計区分	
	一般・特別合算	一般・特別合算			一般会計	特別会計
<事業高>						
支部会費	678,000	678,000	0	2000円×339人	678,000	0
受託収入	3,076,500	3,076,500	0	前年並み	0	3,076,500
事業部売上高	39,750	0	-39,750	販売部 廃止		0
受取補助金	0	0	0		0	0
受取寄付金	18,000	18,000	0	例年分計上	18,000	0
事業高合計	3,812,250	3,772,500	-39,750		696,000	3,076,500
<売上原価>						
期首商品棚卸高	73,566	0	-73,566		0	0
当期商品仕入高	0	0	0	販売部 廃止	0	0
期末商品棚卸高	7,870	0	-7,870		0	0
売上原価	65,696	0	-65,696		0	0
事業利益	3,746,554	3,772,500	25,946		696,000	3,076,500
<事業管理費>						
支払調査費	1,889,927	1,850,000	-39,927	前年並み	0	1,850,000
報告費	171,000	167,000	-4,000	前年並み	0	167,000
雑損費	271,000	271,000	0	前年並み	0	271,000
通信費	290,708	329,000	38,292	しろちどり発行増(年4回)	187,826	141,174
印刷費	162,265	223,000	60,735	しろちどり発行増(年4回)	189,808	33,192
消耗品費	143,585	55,000	-88,585	パソコン購入減	20,673	34,327
減価償却費	158,903	0	-158,903	償却終了	0	0
会場費	9,490	34,450	24,960	チュウヒサミット増	26,787	7,663
会議費	5,687	8,000	2,313		1,513	6,487
旅費交通費	441,970	499,000	57,030	チュウヒサミット増	374,184	124,816
支払手数料	52,500	52,500	0		9,929	42,571
講師謝礼金	0	40,000	40,000	野鳥講座2回企画	40,000	0
図書費	19,340	10,000	-9,340		10,000	0
寄付金	20,000	0	-20,000		0	0
諸会費	5,000	16,000	11,000		16,000	0
雑費	36,056	42,150	6,094		14,041	28,109
事務費	72,000	72,000	0		0	72,000
保険費	41,800	42,000	200		0	42,000
一般管理費合計	3,791,231	3,711,100	-80,131		890,761	2,820,339
事業総利益	-44,677	61,400	106,077		-194,761	256,161
<事業外収益>						
受取利息	1,391	1,500	109		1,500	0
雑収入	15,000	20,000	5,000		20,000	0
事業外収益合計	16,391	21,500	5,109		21,500	0
当期純利益	-28,286	82,900	111,186		-173,261	256,161
<税金等>						
法人税等	162,400	82,900	-79,500	前年分法人税減	0	82,900
税引後利益	-190,686	0	190,686		-173,261	173,261

* 一般会計173,261円の赤字、特別会計173,261円の黒字、差し引き利益0となる。

野鳥講座開催

「ウトナイ湖、鴨池、豊田市自然観察の森の野鳥たち」

2010年5月23日総会の後、(財)日本野鳥の会豊田市自然観察の森チーフレンジャー大畑孝二さんを招いて、上記の演題で野鳥講座が開催されました。

大畑さんは北海道ウトナイ湖・石川県片野鴨池・愛知県豊田市自然観察の森でレンジャーとして長年活躍されています。ウトナイ湖や片野鴨池などで、体験されたいろいろな野鳥の記録をもとに、講演をしていただきました。ウトナイ湖で増えたコブハクチョウが近親交配による遺伝子の劣化で、孵化する数が激減してきたことなど、鳥好きにはとても楽しい時間を過ごせました。



松阪市白猪山風力発電建設計画 関係機関へ要望書

松阪市白猪山に計画中の風力発電建設計画について、関係機関5者（新エネルギー導入促進協議会、松阪市、三重県、ジャネックス、クリーンエナジーファクトリー）に対し、要望書および意見書を提出しました。三重県、松阪市への要望書は、下記のとおり。

新エネルギー導入促進協会へは、事業者に補助金を交付しないよう、ジャネックスおよびクリーンエナジーファクトリーに対しては事業の中止を要望しました。

目次

2010年度三重県支部総会	1
表紙の言葉	3
2010年度予算案	4
野鳥講座開催	5
目次	5
松阪市白猪山風力発電建設計画要望書	5
野鳥記録	9
しろちどり原稿募集	9
事務局だより	10
理事会報告	11
探鳥会報告	12
日本野鳥の会三重 規則	16
ブッポウソウバスツアーの案内	18
チュウヒサミット 2010 の案内	19
編集後記	19

また、このことについて県から「環境影響評価条例の対象外の事業であるが、事業者は自主アセスを実施しており、県においても環境影響についての意見を伝えるとともに、地域における議論を注視していきたい」との回答がありました。

資料1

要 望 書

三重県知事 野呂 昭彦 殿

2010年1月12日

日本野鳥の会三重県支部
支部長 平井正志

ジャネックス社及びクリーンエネルギー社によって三重県松阪市白猪山に計画されている風力発電事業はサシバなどの渡り鳥のルートに位置するものであり、絶滅危惧種クマタカの生息・繁殖を脅かす恐れが強いものです。我々日本野鳥の会三重県支部は別紙のような意見に達しました。

つきましては、1)クマタカの生息・繁殖を脅かす恐れが強く、サシバなどの渡り鳥のルートに位置する白猪山風力発電計画に同意しないように要請いたします。2)また、当該計画予定地のクマタカの生息・繁殖を積極的に保護するよう対策を講じるよう要請いたします。3)さらに風力発電計画は従来の工場建設、宅地建設などの開発と異なり、巨大な回転風車を広範囲に設置するものです。改変規模のいかんに関わらず、三重県環境影響評価条例にもとづくアセスメントを実施するよう、指導すると共に、条例の改正を要請します。

資料2

要 望 書

松阪市長 山中 光茂 殿

2010年1月12日

日本野鳥の会三重県支部
支部長 平井正志

ジャネックス社及びクリーンエネルギー社によって三重県松阪市白猪山に計画されている風力発電事業はサシバなどの渡り鳥のルートに位置するものであり、絶滅危惧種クマタカの生息・繁殖を脅かす恐れが強いものです。我々日本野鳥の会三重県支部は別紙のような意見に達しました。

つきましては2社の白猪山風力発電計画に同意しないように要請いたします。

資料3

意 見

白猪山に計画されている風力発電施設建設には反対である。

日本野鳥の会三重県支部

三重県松阪市白猪山高須ノ峰山系にジャネックス及びクリーンエネルギーの2社によって別々に計画されている風力発電についてはいずれもクマタカの繁殖地にあり、また猛禽の渡りの重要なルートである可能性が高く、さらに周辺の自然を破壊する可能性があり、反対である。

1. クマタカは絶滅危惧種IB類(EN)に指定されており、繁殖率が極めて低い。
2. 当該地区のクマタカに関する調査は7ヶ月弱ないし10ヶ月の調査であり、不十分である。
3. 当事業はクマタカ繁殖に影響を及ぼす可能性が高い。
4. 猛禽の渡りについての調査は十分ではない。
5. 当事業はサシバ等猛禽の渡りに影響を及ぼす可能性が高い。
6. 周辺山系および山麓は豊かな自然とそれと調和した生活圏が存在し、当該事業はそれを大きく破壊する可能性がある。

クマタカの繁殖について

1. クマタカは環境省により絶滅危惧種に指定されている。ほぼ全国に分布し、繁殖している。しかし、その数は正確に把握されておらず、繁殖率は近年急激に低下している(クマタカ・その保護管理の考え方:クマタカ生態研究グループ)(Iida et al. 2006)。当該地区では少なくとも4つがいのクマタカが繁殖しており、極めて貴重な山系である。

2. ジャネックス社の調査はクマタカの行動について2月から8月までの期間の調査であり、ディスプレイなど重要な繁殖行動の盛んな冬期の調査がされていない。

クマタカは11月ころからディスプレイを始め、巢外での幼鳥への給餌は長期に続く。また、クリーンエネルギーの調査でも2008年8月から2009年5月までの調査であり、環境庁によって推奨されている複数年の調査(猛禽類保護の進め方66ページ)ではなく、両調査とも繁殖行動圏を解析するには無理がある。また、繁殖の成功は4つがいの中、2つがいのについては成功しているようであるが、他の2つがいのについては不明のまま、残されており、当年は繁殖に成功しなかった可能

性がある。絶滅危惧種であるクマタカの営巣地に近い事業の調査としては不十分と言わざるを得ない。全繁殖期について複数年の調査を行うべきである。クリーンエネルギーの準備書ではクマタカの行動圏分析の図が全く示されておらず、広く住民に調査結果を知らせ、それに基づいて事業の的確性を問うという準備書というにはほど遠い内容である。

3. ジャネックス社の調査によれば風車建設予定地の大部分が95%行動域に隣接し、最大行動圏内にある。クマタカの営巣への影響は否定できない。クマタカ・その保護管理の考え方：クマタカ生態研究グループ)によればハンティングに利用するコアエリアは700haから800haとされており、今回の95%行動圏(569haから269ha)よりかなり広い可能性がある。とりわけ、ディスプレイが盛んな冬期の調査がジャネックスの調査では欠落しているのは重大である。クリーンエネルギーの準備書では行動圏などの図が全く示されておらず、環境影響評価の内容を広く住民に知らせ、是非を問うという趣旨に全く沿っていない。また、クリーンエネルギーの準備書では591例の観察のうち、88例が風車回転範囲で観察された点は見過ごすことができない。本事業地=風車建設予定地は当該クマタカつがいの繁殖に不可欠な範囲である可能性が否定できない。

さらに、両調査とも4つがいの生息とされているが、クリーンエネルギーの準備書では行動圏などが図示されていないため、この4つがいが同一であるかどうか判断できない。しかし、クリーンエネルギーの風車設置場所の変更図からすると南側に3つがいが繁殖する可能性がある。また、クリーンエネルギーの風車設置場所の東端のいくつかはジャネックスの解析では95%行動圏の中に入る。このように互いの調査結果とそれに基づく計画変更は矛盾点が多い。

4. ジャネックス社の準備書では回転する大型風車がクマタカの行動・行動圏にどのような影響を与えるかについては、まったく推測だけで影響が少ないと断じている。騒音などについては順致する(準備書 p.6.7-35)としているが、根拠は薄い。また、回転体に対しては忌避行動による生息範囲の限定などが想定されるが、準備書ではどのような行動変化、行動圏の変化が現れるのか、それが

繁殖にどのような影響を及ぼすのかについては推定すらしていない。クリーンエネルギーの準備書でもこの点は同様である。クリーンエネルギーの準備書では主稜線上のディスプレイは、一時的な飛翔であるとしているが、これを制限した場合にどのような影響が出るのか論議していない。当選事業主体が根拠のある推論を提示すべきである。

5. クマタカの風車への衝突についてはジャネックス社の準備書でも「本事業において供用後に風力発電機のブレード、タワー等への接近・衝突する可能性は考えられる。」(準備書 p.6.7-36)とされている。

したがって当該計画はこの山系におけるクマタカの繁殖に及ぼす影響が小さいとはいえ、到底容認できるものではない。

猛禽の渡りについて

1. 猛禽の渡り特に内陸の渡りはその日の天候によってルートが大きく変更すると考えられ、春秋それぞれ1季の調査では不十分である。複数年の調査が必要である。



2. サシバ等の猛禽の渡りについては鳥羽市、伊勢市、高見山の3地点は三重県内でも渡りが集中

する地点として知られているが、その他に集中する地点は知られていない。ジャネックスの準備書では武田 (Strix 8:35-123(1989)) を引用し、伊勢から高見山までの直線コースが主要ルートであるかごときに示されている (ジャネックス準備書 6.3-24)。しかし、武田の論文でも三重県内、内陸では勢和町前村、家城、五桂池、東雲寺の調査が記載されているのみであり、内陸のどこが主要ルートであるかは示されていない。ジャネックスおよびクリーンエナジーの調査は春夏それぞれ一季のみの調査である。一季のみの調査での結論はとうてい受け入れられない。

3. しかし、今回ジャネックスの調査で9月の2日間に事業地上空で合計73羽が観察され、また、周辺も含めると全期間で218羽のサシバが観察されている。また、クリーンエナジーの調査では全期間では周辺も含めて839例が観察され、10月だけでも587例が記録されている。クリーンエナジーの調査ではハチクマの渡りも22例、ツミ23例、ハイタカ76例が観察されており、その大半が渡りであると推定される。内陸の渡りルートはその時の気象状況で変化すると考えられるが、本事業地は、サシバ・ハチクマ等猛禽の渡りの重要なルートである可能性が極めて大きい。

また、ジャネックスの調査では高度別の飛行においても風車建設予定地を通過した個体では最

も衝突の可能性の高い高度を94%の個体が通っている (準備書 p6.3-28) ことは重大である。また、クリーンエナジーの調査は飛翔図が公表されていないが、それでもサシバ観察個体のほぼ1割(65例)が風車回転範囲で観察されている。

当該事業地はサシバなどの猛禽の渡りの重要なルートに位置する可能性が高く、重大な影響を及ぼす可能性が高い。

周辺の環境と住民の生活について

白猪山周辺は植林地が多いが各所に広葉樹林も残されている。また、多くの鳥類が生息する。さらに、南麓の深野の水田は日本の棚田100選に選ばれ、南麓、北麓ではサシバの繁殖も示唆される。当該事業予定地は中央構造線の沿線にあり、地盤が緩く急傾斜であるため土砂等の流失が発生しやすい。現に多くの砂防ダムが建設されている。稜線付近での大規模な工事はこの自然と住民の生活に大きな影響を及ぼす可能性がぬぐいきれない。

以上



野鳥記録 (2010年2月～2010年5月に報告のあったもの)

※表中の「報告者」は「初認者」ではない場合もあります。

種名	個体数	記録日	場所(通称など)	記録報告者	写真	備考
ナベツル	9	2010/1/2-1-17	南牟婁郡紀宝町	清水 勝海	○	1
ミツユビカモメ	1	2010/3/3	尾鷲市瀬木山町中川河口	中井 節二	○	
コチドリ	3	2010/3/6	南牟婁郡美浜町	中井 節二	○	2
ハイロチュウヒ	5	2010/3/13	木曾岬干拓 三重県側	米倉 静	×	3
カワアイサ	10	2010/3/14	度会郡度会町	小坂 里香	×	4
ベニマシコ	5	2010/3/14	度会郡度会町	小坂 里香	×	
クロツラヘラサギ	1	2010/4/5	松阪市金剛川愛宕川河口	中村 洋子	○	5
ムネアカタヒバリ	5	2010/4/13-4/21	南牟婁郡美浜町	中井 節二	○	
シマアジ	4	2010/4/16-4/17	南牟婁郡美浜町	中井 節二	○	6
シマアジ	3	2010/4/17	木曾岬町木曾岬干拓地北側の干潟	平井 正志	×	
アカガシラサギ	1	2010/4/25-4/26	南牟婁郡御浜町市木 水田	清水 勝海	○	
ムネアカタヒバリ	1	2010/4/30	熊野市有馬町	中井 節二	○	
ツバメチドリ	1	2010/4/30	熊野市有馬町	中井 節二	○	
ミゾゴイ	1	2010/5/3-5/5	熊野市紀和町	中井 節二	○	
コムドリ	10+	2010/5/4	伊勢市宮川堤	小坂 里香	×	
アオバズク	1	2010/5/4	度会郡度会町	小坂 里香	×	7
ヘラサギ	1	2010/5/4-5/12	南牟婁郡紀宝町	清水 勝海	○	
ブッポウソウ	1	2010/5/5	三重郡菟野町県民の森	伊藤 敏和	○	8
キビタキ	1	2010/5/8	伊勢市佐八町伊勢かぐらばりゾート内	小坂 里香	×	9
ホトギス	1	2010/5/12	度会郡度会町	小坂 里香	×	10
ホトギス	1	2010/5/25	三重郡菟野町県民の森	矢田 栄史	×	
コシアカツバメ	10	2010/5/27	三重郡菟野町	矢田 栄史	×	

- 備考1 親6幼鳥3の群れ
 備考2 うち1羽は部分白化個体
 備考3 雄3雌2
 備考4 雄4雌6 毎年見かけるが10羽まとまっているのを見るのはひさしぶり。2006年にコウライアイサを発見したのに近いポイント。今年は混じっていない。
 備考5 1日だけの滞在。例年飛来する個体と思われます。
 備考6 雄3雌1
 備考7 夜7時頃から、鳴き声が続いた。声のみ。今季初認。毎年渡来する
 備考8 当日午前中のみ。渡り途中の個体と見られる。
 備考9 声のみで確認 コナラ林の中で長時間さえずっていた 同年6/5にも同所少し離れたところでさえずり確認。同一個体かどうかは不明だが繁殖の可能性も？
 備考10 早朝今シーズン初聞き。以降滞在中。毎年記録あり、声のみで確認。

※「備考」は、特に注意のない限り、報告者のコメントから抜粋したものです。

観察記録募集！支部のHP http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/index.htm から簡単に投稿できます。支部報に掲載できない記録もデータとして保存しています。ぜひご協力ください。

しろちどり原稿募集

編集部では原稿を募集しています。鳥に関わるどのようなことでも結構です。

挿絵なども募集します。

締め切りは2010年8月31日です。

原稿は、編集担当 近藤義孝まで E-mail: fwhy4368@mb.infoweb.ne.jp

住所 〒511-0123 桑名市多度町北猪飼 521


事務局だより

支部活動の記録（2010年2月～5月）

- 2/25 風発問題について松阪市長と面談（支部長他）
- 3/1 支部報「しろちどり第63号」発行
- 3/7 第4回理事会開催
- 3/10 松阪市議会を傍聴（松阪地区）
- 3/14 「霞4号幹線と高松干潟を守る会」に出席（副支部長）
- 3/21～22 しぜん文化祭に出展（北勢地区協力）
- 3/27 大台町風力発電学習会に参加協力
- 3 会計決算／委託事業まとめ作業・事務処理
- 4/13 「CEF宮川ウインドファーム事業」「CEF大台不動ヶ岳ウインドファーム事業」の環境影響評価方法書に対する意見書をクリーンエナジーファクトリー社へ提出
- 4/19 鈴鹿山脈イヌワシ問題で県を訪問（支部長他）
- 4/25 松阪風力発電学習会に参加協力
- 4/27 県営防災ダム事業環境調査委託について入札
- 4/27 （財）日本野鳥の会の2名を白猪山へ案内
- 5/9 会計監査
- 5/19 総会資料印刷作業
- 5/27 白猪山風力発電問題で松阪市等へ要望書を提出
- 5/27 鈴鹿市中西部特定猟具使用禁止区域 期間更新に係る意見書を提出

●今後の予定

- 6/7 五主海岸沖の県による「再生漁場環境保全創造事業」について説明会
- 6/12 支部報「しろちどり第64号」発行
- 6/12～13 中部ブロック会議（長野県）に出席

	取扱商品
	フィールドスコープ 双眼鏡(小型・大型) 天体望遠鏡 カメラ(新品・中古) その他光学製品各種
	取扱メーカー
	KOWA・NIKON・FUJINON M.YAUCHI・V.XEN・PENTAX他
中部地区最大の光学製品専門店	
TELESCOPE CENTER EYEBELL	
テレスコープセンターアイベル（株式会社アイベル）	
〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119	
定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00～19:00	
ホームページ http://www.eyebell.com メールアドレス eyebell@diamond.toba.lcc	

理事会報告

第4回(2010年3月7日)

津市雲出市民センター 出席者11名

【協議事項】

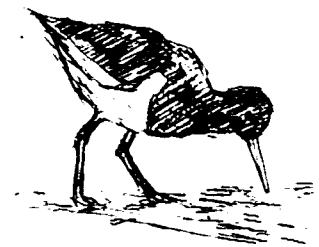
- 総会準備 当日の役割分担を決めた。
- 野鳥講座 講師を検討。
- 会計報告
- 予算案 年度内に事務局用としてPC・プリンター購入を認めた。
日本熊森協会が募っている大台町トラスト運動に支部として2万円寄付する。
- 支部規則改正案
一部修正し、支部長(代表)から提案する。
- 来期の体制 理事会のほかに代表・副代表・事務局長・会計ぐらいで集まり、方針原案をつくってはどうか。
- 白猪山風力発電問題 三重県内の風力発電についてHPへ掲載する。
- チュウヒサミット 7月18日名古屋国際会議場 支部からの出費は予稿集代など5~10万円を予定する。
- 鈴鹿イヌワシ問題 営巣地に民間業者による石灰岩採掘の開発計画がある。現在、環境影響評価方法書の縦覧が終わり、環境影響調査を実施中。
- 探鳥旅行 1泊2日で岡山ブッポウソウなど候補があがった。
- しぜん文化祭 3/21~22 菰野町 当日の準備・運営について検討した。

2010年度

第1回(2010年5月23日)

三重県総合文化センター 中会議室 出席者10名

- 総会準備 内容・各自の役割分担等の確認
- 野鳥講座
- 風力発電問題 白猪山:再度要望書を知事、市長、新エネルギー導入促進協会、事業者へ提出する。
- 鈴鹿山脈イヌワシ問題 事業者と接触してはどうか。
- 探鳥旅行 案内は別便で送る。
- 中勢海岸保護 シロチドリ、コアジサシの繁殖地保護について検討した。
- 中部ブロック会議 長野県で開催される。3名参加予定



探鳥会報告 (10年2月~4月)

● 木曾三川探鳥会

2010年2月14日(日) 9:00~12:00

桑名市多度町、愛知県愛西市

近藤義孝 参加者15名(会員9名)

カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、トモエガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミサゴ、ノスリ、チュウヒ、ハヤブサ、オオバン、コチドリ、シロチドリ、ケリ、タゲリ、イソシギ、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、カワガラス、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計50種

昨年は46種、今年は50種とたくさん観察することができた。木曾川でチュウヒ、長良川でトモエガモ、揖斐川ではホオアカが観察できた。

● 五十鈴川周辺探鳥会

2010年2月27日(土) 9:30~12:00

伊勢市 五十鈴川周辺

西村 泉 参加者11名(会員11名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、カルガモ、トビ、ノスリ、イカルチドリ、イソシギ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、トラツグミ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計35種

当日、明け方まで雨が降っていたが天候が良くなった。

まずは五十鈴公園で30羽程のイカルに迎えられカラ類にも出会った。五十鈴川では川原にイカルチドリやセキレイ類、ヨシ原に多くのオオジュリンがいてゆっくり観察できた。その中で1羽足輪のついたオオジュリンがいた。

● 津偕楽公園探鳥会

2010年2月28日(日) 10:00~12:00

津市 津偕楽公園

石原 宏 杉村滋弘 参加者13名(会員12名)
キジバト、カワセミ、コゲラ、ビンズイ、ヒヨドリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、イカル、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス 計20種

探鳥会当日の朝まで雨が降り続き、どうしようか迷ったが雨は止むとの天気予報を信じて決行した。

天候は回復したが、公園内は当然の事とは言え樹木の刈り込みと整枝、落ち葉の清掃、雑木の整理・・・これでは鳥達の居場所は極端に無くなっていた。おまけに周囲の山林は開発され益々飛来する鳥は少なくなっていく。



● 木曾岬干拓地探鳥会

2010年2月28日(日) 9:00~12:00

弥富市 共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

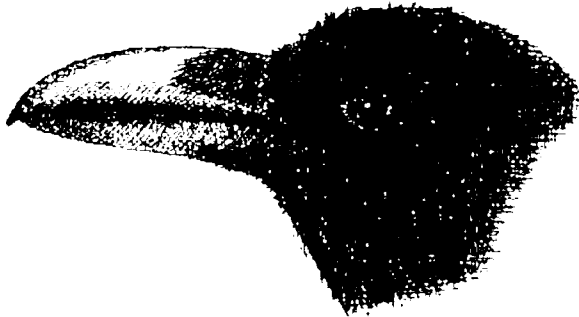
近藤義孝 米倉 静 参加者11名(会員2名)

カイツブリ(7)、カワウ(50)、ダイサギ(1)、アオサギ(3)、マガモ(150)、カルガモ(70)、コガモ(70)、オカヨシガモ(40)、ハシビロガモ(40)、ホシハジロ(20)、キンクロハジロ(40)、ミコアイサ(2)、ミサゴ(3)、トビ(2)、オオタカ(2)、ノスリ(7)、ハイイロチュウヒ(1)、チュウヒ(2)、オオバン(2)、コチドリ(1)、ケリ(10)、クサシギ(1)、イソシギ(2)、ユリカモ

メ (8)、カモメ (3)、キジバト (30)、カワセミ (1)、ヒバリ (40)、ハクセキレイ (5)、タヒバリ (7)、ヒヨドリ (10)、モズ (2)、ジョウビタキ (1)、ツグミ (15)、ウグイス (2)、メジロ (1)、ホオジロ (2)、アオジ (2)、オオジュリン (3)、カワラヒワ (50)、スズメ (150)、ムクドリ (150)、ハシボソガラス (100)、ハシブトガラス (20)、ドバト (30) 計 45 種

夜から降り続いた雨が、開始時間ごろまで降っていたため、参加者は少なかった。

暖かくなってきているが、まだ冬鳥もたくさん見ることができた。



● 石垣池探鳥会

2010年3月7日(日) 10:00~12:00

鈴鹿市 石垣池

市川雄二 市川美代子 参加者 11名(会員 8名)
カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、キジバト、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、アオジ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計 21 種

小雨にもかかわらず、11名の参加であった。

カワウの営巣もみられ全部で 21 種が確認できた。石垣池の中の鳥は枯れ木が多くなり、枯れた木は伐採され、営巣木も減少してしまった。

● 海蔵川探鳥会

2010年3月16日(火) 9:40~12:00

四日市市西坂部町

尾畑玲子 高 和義 参加者 16名(会員 14名)

カイツブリ、カワウ、アオサギ、カルガモ、キンクロハジロ、ハイタカ(?), ノスリ、バン、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計 30 種

カワセミは海蔵川では「常連さん」である。とはいえ、参加者全員がそれを確認できるのは難しい。今日はその青い宝石を全員が堪能できた。さらに、バードウォッチングならぬヌートリアウォッチングも楽しんでしまった。名残のツグミとキンクロハジロが夏鳥のツバメたちにバトンを渡す日が近づいている。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2010年3月28日(日) 9:00~12:00

弥富市 共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者 18名(会員 9名)

カイツブリ (10)、カワウ (50)、ダイサギ (1)、アオサギ (3)、マガモ (20)、カルガモ (20)、コガモ (50)、オカヨシガモ (22)、ハシビロガモ (20)、ホシハジロ (2)、キンクロハジロ (110)、ミサゴ (2)、トビ (1)、ノスリ (2)、ハイイロチュウヒ (1)、チュウヒ (5)、キジ (1)、コチドリ (2)、ケリ (15)、クサシギ (1)、イソシギ (1)、カモメ (2)、キジバト (20)、カワセミ (2)、アカゲラ (1)、ヒバリ (30)、ツバメ (3)、ハクセキレイ (3)、ヒヨドリ (10)、モズ (2)、ジョウビタキ (3)、ツグミ (15)、ウグイス (3)、メジロ (5)、ホオジロ (1)、オオジュリン (2)、カワラヒワ (10)、スズメ (100)、ムクドリ (20)、ハシボソガラス (30)、ハシブトガラス (20)、ドバト (20) 計 42 種

3月は冬鳥のカモ類が残っている一方、南からはツバメなどの夏鳥がやってくる。また、留鳥も繁殖期に入り、いろいろな行動が観察できる。チュウヒもディスプレイ飛行や巣材運びが観察できた。

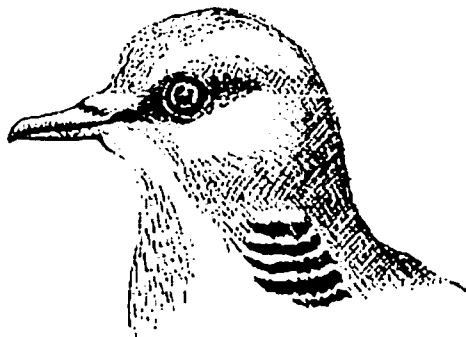
● 篠田山探鳥会

2010年3月28日(日) 9:30~11:30

松阪市久保町 篠田山

水森和子 小津みゆき 参加者16名(会員14名)
カワウ、マガモ、サシバ、キジ、キジバト、アカゲラ、コゲラ、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジュケイ 計24種

桜の花も三分咲きで小鳥が出るには好条件と
思い探鳥会を開始しました。歩き始めて5分位の
場所でキジが鳴き眼下の畑で草むらの中に入っ
て行く赤い頭のきれいなオスを見る事ができま
した。夏羽にかわりかけたカシラダカ、それぞれ
自己を主張したようなツグミ等、皆で楽しい2時
間をすごしました。



● 金剛川河口探鳥会

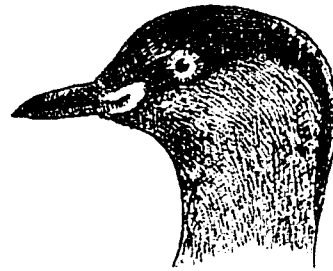
2010年4月2日(金) 9:30~11:30

松阪市 金剛川河口

中村洋子 水森和子 参加者8名(会員7名)
カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、オオバン、シロチドリ、ケリ、ハマシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ズグロカモメ、ツバメ、オオジュリン、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計31種

朝降っていた雨がやんだが、風が強く吹き参加者が少なかった。

ユリカモメの頭は、黒、まだら模様、白と3種見られ、おもしろかった。カンムリカイツブリは、いつも見ている冬羽とは違って夏羽になっていて、とてもきれいだった。ミサゴ、チュウヒが何度も飛んでくれました。



● 篠立林道の春の観察会

2010年4月11日(日) 9:30~14:00

いなべ市 篠立林道

加藤光広 参加者8名(会員3名)

キジバト、アオバト、ウグイス、ヒガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、カケス、ハシボソガラス 計11種

出発時までは雨が降っていた。このような天候であったため参加者が少なかったと思われる。

幸いに観察フィールドに到着してからは雨の心配は皆無。アオバトの鳴き声を聞いて一同いろんな感想が出た。当日はアブラチャン、ヤマコウバシ、キブシ、コバノミツバツツジなど木本類カタクリ、ヒメエンゴサク、ハクサンハタザオ、ナガバノスムレサイシンなどの草本類が開花の美しさを見せてくれた。また、ニホンザル、ホンドリス、ヤマカガシをも目撃できた。



● 五主探鳥会

2010年4月18日(日) 9:30~11:30

松阪市 五主海岸

西村四郎 中村洋子 参加者22名(会員18名)

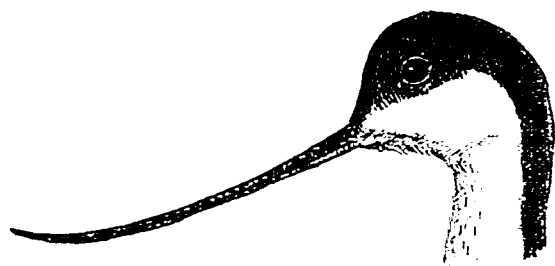
カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、トビ、キジ、シロチドリ、ケリ、ハマシギ、オバシギ、ツルシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、タシギ、セイタカシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、セッカ、ホオジロ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、ミュビシギ、ウミアイサ、シマアジ 計45種

探鳥会開始後はまだ潮が高かったですが、徐々に干潟が現れだし、ミュビシギ、シロチドリ、ハマシギ、チュウシャクシギ、オオソリハシシギなど見られ、オバシギの40くらいの群れには感激しました。

その後は大池に移動し、黒くなったツルシギ、アオアシシギ、コアオアシシギなど、いよいよシーズン到来という感じです。

大阪「交野野鳥の会」からも30名ほど来ていました。

シマアジやコムクドリも観察でき、満足の探鳥会でした。



● 木曾岬干拓地探鳥会

2010年4月25日(日曜日) 9:00 ~ 12:00

弥富市 共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

米倉 静 参加者15名(会員6名)

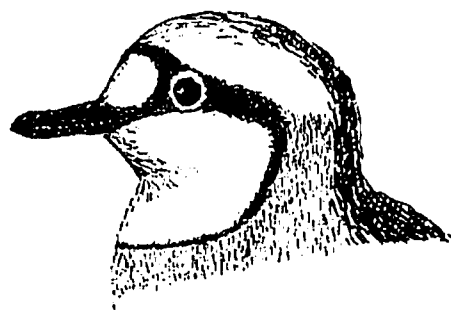
カイツブリ(4)、カワウ(50)、ダイサギ(2)、コサギ(3)、アオサギ(15)、マガモ(5)、カル

ガモ(10)、コガモ(100)、オカヨシガモ(3)、ハシビロガモ(5)、トビ(1)、オオタカ(1)、チュウビ(4)、キジ(10)、オオバン(1)、コチドリ(3)、ケリ(20)、タカブシギ(1)、イソシギ(2)、チュウシャクシギ(1)、ユリカモメ(2)、キジバト(3)、ヒバリ(20)、ツバメ(6)、ハクセキレイ(3)、ヒヨドリ(60)、ノビタキ(1)、ツグミ(10)、ウグイス(3)、セッカ(10)、ホオジロ(2)、オオジュリン(1)、カワラヒワ(5)、スズメ(70)、ムクドリ(5)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(80)、ドバト(40)

計38種

集合場所で、カラス集団がオオタカとアオサギ集団を追うところを見る。港内から干拓を見るとケリのヒナを2羽見られた。伸び出した麦畑では、ケリからモビングを受けるキジも見られた。

木曾岬干拓地でも、カラスが何かにモビング中。何とオオタカの成鳥を追う。チュウビも何度か見られ、時間延長気味で終了する。



5月23日総会において改正された「日本野鳥の会三重」の規則を掲載します。

日本野鳥の会三重 規則

第1条（名称）本会は日本野鳥の会三重（以下「本会」という）と称する。

第2条（事務局）本会は事務局を事務局長宅に置く。

第3条（本会の目的）本会は野鳥に対する正しい知識の普及をはかり、野鳥を通して自然と共存する考え方を広めることを目的とする。

第4条（事業）本会は前条の目的を達成する為に次の事業を行なう。

- (1) 探鳥会その他の催し物
- (2) 野鳥等自然に関する調査と研究
- (3) 野鳥との共存に関する地域活動のための指導者の育成
- (4) 野鳥を中心とした自然との共存に必要と認められる諸活動
- (5) 会報その他の出版物の刊行
- (6) その他本会の目的を達成するために必要な事業

第5条（資産の構成）本会の財産は次の通りとする。

- (1) 日本野鳥の会三重県支部設立当初、三重野鳥の会から継承されたもの
- (2) 日本野鳥の会三重県支部から継承されたもの
- (3) 会費及び寄付金
- (4) 補助金
- (5) 備品等の財産
- (6) その他の収入

第6条（資産の管理）本会の資産は、帳簿をもって代表が管理する。

第7条（事業計画及び予算）本会の事業計画及び予算は、毎年事業年度開始前に理事会の決定を経て総会へ報告され承認されるものとする。

第8条（事業報告及び決算）代表は毎事業年度終了後2ヶ月以内に事業報告、決算、財産目録、貸借対照表を作成し監事の監査を受け、理事会の決定を経て総会の承認を受けなければならない。

第9条（事業年度）本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第10条（役員の種類）本会には次の役員を置く。

1. 理事30名以内
2. 監事2名
3. 理事のうち1名を代表とする。
4. 代表以外の理事のうちから2名以内の副代表を置くことが出来る。
5. 代表、副代表以外の理事のうち1名を事務局長とする。

第11条（役員の役割）役員の役割は次の通りとする。

1. 理事は本会の運営にあたる。
2. 代表は本会を代表し本会を統括する。また、本会の属するブロックの会議には代表が出席することとし、代表が出席できない場合は代理を指名することができる。
3. 副代表は代表を補佐し事務を統括する。
4. 事務局長は事務局を統括する。
5. 監事は、民法第59条の職務を行なう。

第12条（役員を選出）

1. 役員は総会において選出する。
2. 代表、副代表並びに事務局長は理事会において互選する。

第13条（役員の任期）

1. 役員の任期は2年とする。但し再任を妨げない。
2. 役員は、任期終了後も、後任者が就任するまでその職務を続行する。

第14条（役員解任）役員が本会の役員として不適当と認められるときには、理事会または総会出席者の3分の2以上の議決においてこれを解任できる。

第15条（顧問）本会に顧問を置くことができる。

第16条（部及び委員会）

1. 本会は第4条の事業を推進するために必要と認めるときは、部及び委員会を設けることができる。
2. 部及び委員会の設置及び廃止については理事会で決議する。

第17条（総会）

1. 総会は本会会員をもって構成し、毎年1回以上開くものとする。
2. 総会は事務局が召集し、あらかじめ会議の日時、場所、会議の目的を示して会員に通知する。
3. 代表は総会出席者のうちから議長を選出する。
4. 議長は総会出席者のうちから議事録署名人を2名選出する。

第18条（総会の議決事項）総会では次の事項を審議議決する。

1. 事業報告及び決算の承認
2. 事業計画及び予算の承認
3. 役員を選任及び解任
4. 規則の変更
5. その他本会の運営に必要な重要事項

第19条（総会の議決）

1. 総会の議事は出席者の過半数で決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。
2. 本会規則の変更は総会出席者の3分の2以上をもって決する。

第20条（理事会）理事会は理事及び監事をもって構成する。

第21条（理事会の開催）

1. 代表は、年2回以上理事会を開くものとする。
2. 代表は、定例理事会を開催するときは、あらかじめ会議の日時、場所、会議の目的を各理事に通知しなければならない。
3. 理事会は理事の2分の1以上の出席がなければ開会できない。ただし、他の理事に委任の届出があればその限りでない。

第22条（理事会の議決事項）理事会は、総会の決定事項に基づき、次の事項を審議議決する。

1. 代表は、副代表、事務局長の選出
2. 部及び委員会の設置、廃止
3. 役員解任
4. 会員の退会
5. 本会の運営方法
6. その他

第23条（理事会の議決）理事会の議決は、委任を含む出席者の過半数で決し、可否同数の場合には議長の決するところによる。

第24条（会の構成）会員は原則として三重県内に居住する本会の会員で構成されるが、県外からの入

会もこばまない。

第25条（名誉会員）

1. 名誉会員は三重県下の野鳥や自然の保護活動または本会の発展に著しく貢献したもので、理事会の推薦によって、代表がこれを指名する。
2. 名誉会員については、会費を徴収しない。

第26条（会員）

1. 会員は会費を前納しなければならない。
2. 会員の資格を失ったとき、既納された会費は返納しない。

第27条（入会） 入会は、氏名（ふりがな）、性別、生年月日、住所、電話番号を明記し入会金及び年会費を添えて申し込まなければならない。

第28条（退会） 会員は次の事由により、その資格を喪失する。

- (1) 会員が会費を滞納したとき。
- (2) 退会したとき。
- (3) 会員が（財）日本野鳥の会並びに本会の名誉を著しく傷つけ、又は（財）日本野鳥の会並びに本会の目的に反する行為のあったときは、理事会の決議を経て退会させることができる。

第29条（付則）

1. この規則に定めていない事項については、理事会の定めるところによる。
2. 本会初年度の理事は、2010年度三重県支部総会において決定された理事とする。

第30条（規則）

この規則は、平成5年3月21日より施行する。
この規則は、平成10年4月19日より施行する。
この規則は、平成12年4月30日より施行する。
この規則は、平成22年5月23日より施行する。

すでに案内は届いていると思いますが、しろちどりにも再度掲載します。

ブッポウソウ バスツアー のご案内

7月はブッポウソウの子育ての季節です、ゆっくり、驚かさずに観察しましょう。

行程 平成22年7月3日(土)～4日(日) 雨天決行
7月3日7時津駅発 バスにて 岡山へ 午後ブッポウソウ観察 兵庫県内泊
7月4日神戸市立森林植物園、大阪南港野鳥園で観察後、17時頃津駅着
* 時間は交通事情等により変わることがあります。

参加 40名(先着順)
三重県支部会員及び家族会員

参加費 又はこれを機会に三重県支部会員になる人も可
20,000～25,000円程度(参加人数により変わります)

申し込み メールか葉書で、氏名・住所・連絡先・電話(できれば携帯も)を明記して申し込んで下さい。

メール s-nishimura@miedoren.or.jp

葉書 〒515-1501 松阪市飯高町下滝野885-7 西村四郎

TEL: 0598(46)0857 携帯 090(2682)5338

申し込みを受けた場合は必ず連絡をしますので、1週間たっても連絡がない場合は再度電話で連絡をお願いします。

定員に達した場合はお断りすることがあります。了承下さい。

チュウヒサミット2010

一攫のハンター、絶滅危惧鳥類チュウヒを知っていますか？



2010年7月18日(日)

10:00~17:30 参加無料・事前申込不要

名古屋国際会議場

234会場

チュウヒサミット 2010

別紙案内のように、チュウヒサミット2010を開催します。

チュウヒサミットは2006年愛知大学車道校舎で、2008年名城大学天白校舎で開催されました。

チュウヒの生態や保護のための集会として、有意義なものであったと思います。

今回は、イギリスよりゲストを招きました。また、チュウヒの生態の映像なども紹介されます。

チュウヒの繁殖地、大湊村より村長さんも来ていただきます。

編集後記

私ごとですが、10年間勤めた職場から、この4月に転勤しました。慣れない職場であわただしく過ごしています。朝は早くなり、帰りもだいぶ遅くなりましたが、電車通勤に代わり、たくさん本が読めるようになりました。新しい職場で、野鳥に関心のある人、昆虫に関心のある人など新しい出会いもありました。定年まであと4年間、健康でがんばりたいです。

先号で書いた鳩山前首相の夢「引退後は農業」は私より早く実現できるようです。菅新首相はどのような政策を実行してくれるか、これからが楽しみです。

Y.K.

しろちどり 64号

2010年6月12日発行

題 字：濱田 稔

表紙絵：北川和則

カット：坂元伸治、平井正志、北川和則

編 集：近藤義孝

511-0123 桑名市多度町北猪飼521

発行所：日本野鳥の会三重

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野910-49

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印 刷：東海出版(有)

510-0885 四日市市日永4丁目5-48